

アメリカ癌学会での研究発表



目で見える
海外論文発表

小 野 良 輔*

Presentation at AACR annual meeting 2022

Key Words : Cancer, Cancre immunology, NK cell, Oncolytic virus

<参加会議名>

American Association for Cancer Research
Annual Meeting 2022

<開催場所>

New Orleans, Louisiana, United States

<渡航期間>

2022年4月8日～2022年4月15日

<発表タイトル>

Oncolytic adenovirus serotype 35-mediated
activation of NK cells leads to efficient anti-tumor
effects.

私が参加した American Association for Cancer Research Annual Meeting 2022 は、世界で最も歴史のある癌研究に関連する学会です。私は、「腫瘍溶解性アデノウイルスを用いた新たながん免疫療法の開発」についてポスター発表しました。アデノウイルスは、風邪の原因となるウイルスであり、本研究では、癌細胞でのみ感染増殖することで癌細胞を死滅できるように遺伝子改変した腫瘍溶解性アデノウイルスを用いています。本発表では、当研究室が開発に成功した 35 型腫瘍溶解性アデノウイルスが、ウイルス感染細胞や癌細胞に対して高い殺傷能力を示す免疫細胞であるナチュラルキラー細胞の活性化を介して高い治療効果を示すことを報告しました。

ポスター発表であったため、海外の様々な研究バックグラウンドを持つ研究者と親密なディスカッションができました。特に SNS で事前に連絡を取っていたことで、科学雑誌の編集者の方と直接話すことができ、自身の研究を論文にするために求められる今後の実験について意見を交わすことができました。

私自身、初めての国際学会への参加であったため、文化の違いや会場の規模など驚きの多い刺激的な体験となりました。癌研究の著名な研究者によるシンポジウムでは、世界の癌研究の流行や今後の展望を学ぶことができました。また若手研究者の交流会や研究キャリアについてのイベントにも参加し、最先端の知識を学ぶだけでなく、同世代の研究者から刺激を受け、自身のキャリアについて考える良い機会にもなりました。特に研究環境が異なる同世代の研究者との交流は、文化的な背景からも自身の視野を広げることができました。本学会に参加することで、知識だけでなく、今後の研究者生活に役立つ貴重な経験ができました。このような貴重な経験を積む支援をいただいた生産技術振興協会に深く感謝致します。



* Ryosuke ONO

1995年3月生まれ
摂南大学 薬学部 薬学科 卒業
(2019年)
現在、大阪大学大学院 薬学研究科
分子生物学分野 博士課程4年
学士(薬学)
専門/分子生物学, がん免疫
TEL : 06-6879-8188
FAX : 06-6879-8187
E-mail : ono-r@phs.osaka-u.ac.jp



オープニングセレモニー



ポスター会場



ポスターと自身